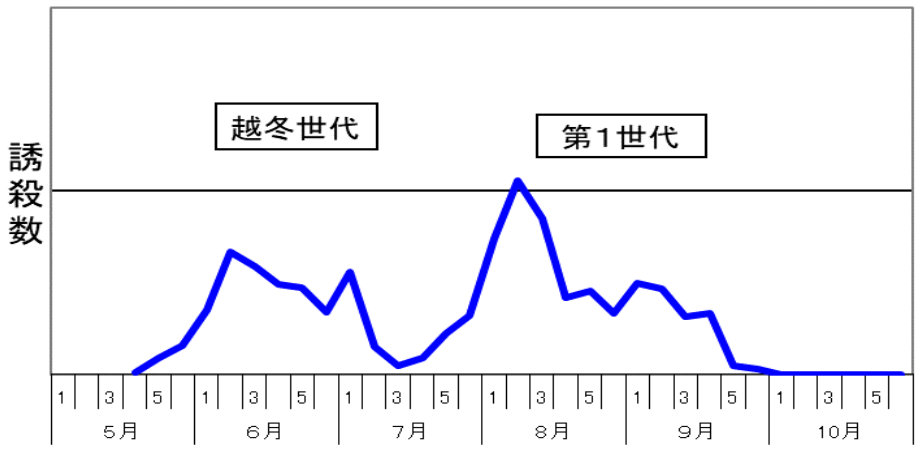
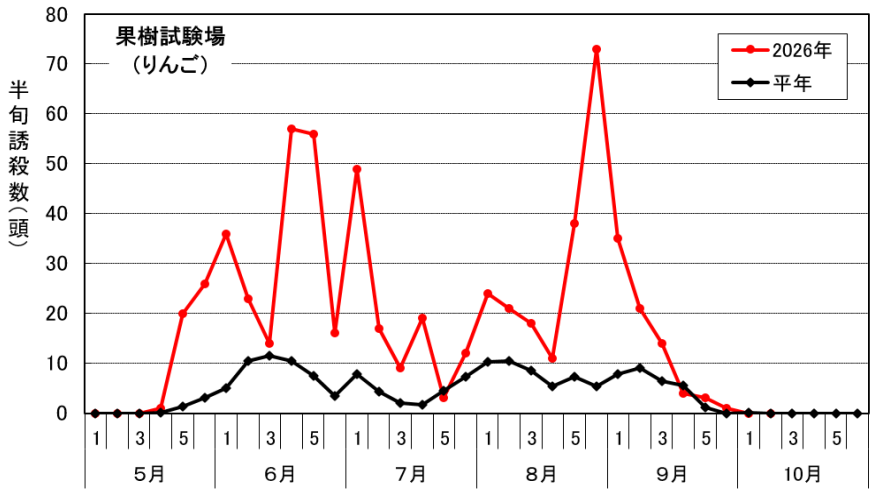
# モモシンクイガのフェロモントラップ誘殺消長［令和８年(2026 年)調査］

病害虫防除部

過去 10 年間の消長模式図（果樹試験場内　試験場予察ほ）



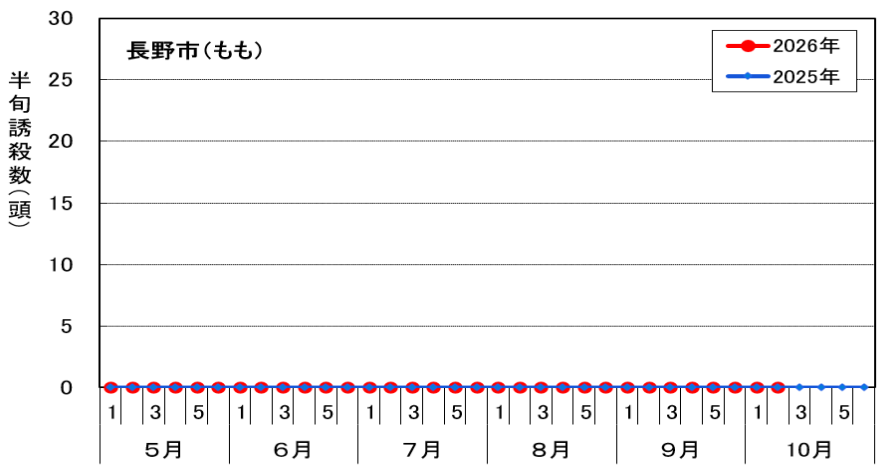

## ○県予察ほ（須坂市・果樹試験場）



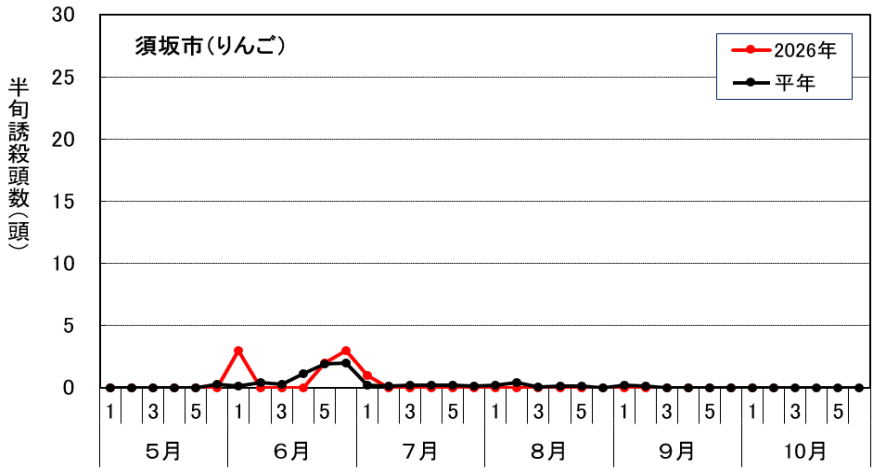

【発生生態と防除のポイント】
・標高 600m以下の平地では年２回が大半である。
・準高冷地及び日照の少ない山沿いでは年２回発生が主体で、１回発生が混在する。
・越冬世代成虫は６月上旬から始まり、７月に入ると盛んになり、８月上旬まで続く。産卵は７月になると急増し、産卵最盛期は７月中下旬で、大半は「がくあ部」に産みつけられる。
・第１世代成虫は８月上旬から発生し、発生最盛期は８月中～下旬である。産卵最盛期は、成虫の発生期とあまり変わらない。
・防除はふ化幼虫の食入防止を中心とする。６月下旬から概ね２週間間隔で９月上旬まで防除する。特に７月中下旬と８月中下旬は重要な防除適期である。

【調査地点】（標高約 350m）
・須坂市　長野県果樹試験場（りんごほ場）
・平年は 2016 年～2025 年の平均値
【コメント】
・８月第６半旬に、ここまでの最大値、半旬で 70 頭の誘殺を記録した。平年の約７倍である。
・その後は急速に減少し、10 月第１半旬には誘殺が０となった。本年の発生はほぼ終了したと考えられる。

## ○長野市・須坂市（病害虫防除部）

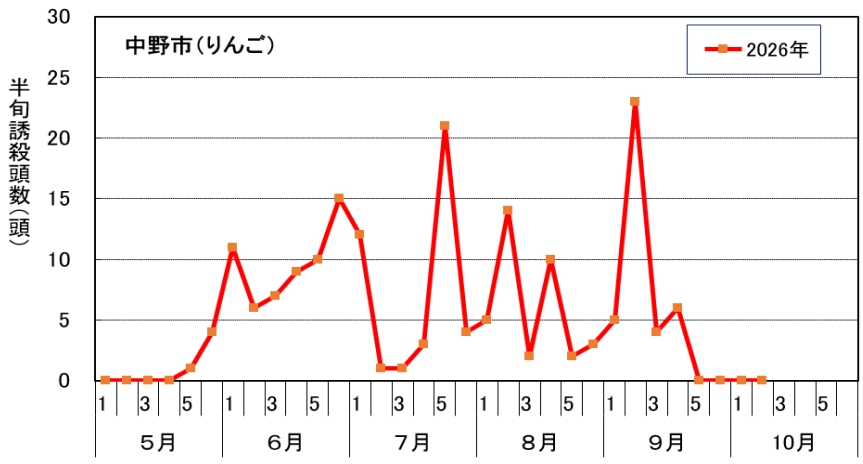



【調査地点】（標高約 370m）
・長野市（ももほ場）
・2024 年からほ場を変更したため、平年値なし。
【コメント】
・本地点は、例年誘殺頭数が極めて少ないが、本年もこのまま誘殺が記録されずに終了する可能性がある。



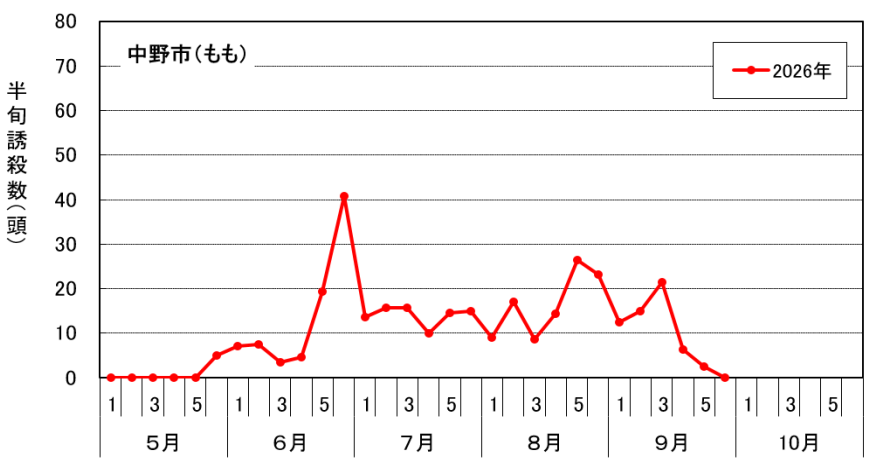

【調査地点】（標高約 430m）
・須坂市（りんごほ場）
・平年は 2016 年～2025 年の平均値
【コメント】
・７月初旬以降、誘殺を観察していない。例年８月以降の誘殺はほぼないため、本年もこのまま終了すると考えられる。

## ○発生予察ほ（中野市・病害虫防除部）




【調査地点】（標高約 370m）
・中野市（りんごほ場）
・2026 年より設置のため、平年値および前年値なし
【コメント】
・誘殺の波が大きいが、特に第１世代の中の増減が頻繁であった。
・９月下旬以降は想定通り誘殺がほぼみられなくなっている。

## ○中野市（北信農業農村支援センター調査協力）




【調査地点】（標高約 370m）
・中野市（ももほ場）
・2026 年より設置のため、平年値および前年値なし
【コメント】
・５月下旬以降誘殺され続けていたが、９月末に誘殺が０となった。誘殺がみられなくなった時期は、想定とほぼ同じであった。